

調査結果の概要及び主な特徴

□ (A・B) 全国平均や県平均と比較して、無解答率が同程度か低くなっており、特にB問題ではほとんどの問題で低くなっています。

「話すこと・聞くこと」について

- (A) 話の論理的な構成や展開などに注意して聞くことについてはよく定着しています。
- (B) 質問の意図を捉えたり、必要に応じて質問したりすることについてよく身に付いています。

「書くこと」について

- (A) 書いた文章を読み返し、伝えたい内容が十分に表されているかを検討することについてよく定着しています。
- (B) 目的に応じて文章を読み、内容を整理して書くことについて全国平均とほぼ同程度ですが、正答率から見ると課題があります。 <「課題及び指導改善に向けて2」参照>

「読むこと」について

- (B) 場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解することや登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立てることは身に付いています。
- (A) 文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉えることについて課題があります。

「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」について

- (A) 文脈に即して漢字を正しく書くこと・読むことについてはよく定着しています。
- (A) 昨年度、課題があった行書の基礎的な書き方について、向上が見られました。
- (A) 目的に応じて文の成分の順序や照応、構成を考えて適切な文を書くことについて課題があります。 <「課題及び指導改善に向けて1」参照>

課題及び指導改善に向けて

1 調査問題A 8 (四) (目的に応じて文の成分の順序や照応、構成を考えて適切な文を書くことができるかをみる問題)

(1) 課題が見られた問題について

「心を打たれる」の意味を問う選択肢は、全国と同程度の正答率でしたが、「心を打たれた。」を文末に用いた一文を、主語を明らかにし、「誰(何)」の「どのようなこと」に「心を打たれた」のかが分かるように書く問題に課題がありました。条件の一部である「心を打たれた」の主語を明確にして書けずに誤答するということが多く見られました。

(2) 指導の改善・充実に向けて

主語の理解が曖昧であり、主語が書けないと考えられます。文の中における主語を捉えたり、主語を明示しながら適切に表現したりする指導が必要です。

文を書くときには、文の成分の順序や主語と述語の照応などを整え、伝えたいことが相手に伝わ

<p>2 「心を打たれた。」を文末に用いた一文を書きなさい。なお、「心を打たれた」の主語を明らかにした上で、「誰(何)」の「どのようなこと」に「心を打たれた」のかが分かるように書くこと。</p>	<p>1 次の言葉の意味として最も適切なものを、あとの1から4までの中から一つ選びなさい。</p> <p>心を打たれる</p> <p>1 遠慮する。</p> <p>2 感動する。</p> <p>3 一つのこと集中する。</p> <p>4 あれこれと心配する。</p>
---	---

るように書くことができているかを吟味するように指導することが大切です。また、文章の中で省略された主語を検討することや、「書くこと」の学習との関連を図り、推敲の際の観点の一つとして取り入れることも効果的だと思います。

2 調査問題B 1 (三) (目的に応じて文章を読み、内容を整理して書くことができるかをみる問題)

(1) 課題が見られた問題について

段落Aと段落Bに書かれている内容を読み取り、文章の中心的な部分を整理して二つある理由を合わせて記述する必要があります。理由が二つあることを捉えられていなかったり、「また」といった語句に注目できなかったりしたため、その一方しか書かれていない生徒が多く見られました。設問文に「理由を二つ書きなさい」という指示がないことも、理由を一つしか書かなかった要因だと思われます。

(2) 指導の改善・充実に向けて

筆者の論の展開を適切に捉え、根拠や理由が書かれている部分を読み取る力を付けることが必要です。そのために、文章の構成や展開の仕方について、自分の考えをまとめたり評価

し合ったりする等の学習を積み重ね、その中で、段落の始めにある指示語や接続詞及び同じような働きをする語句に着目して読むことが大切になります。また、文章を要約することや自分の意見を整理してまとめるなど、日頃から短い文章を書く活動を授業に位置付けていくことも大切です。

<p>三 この文章を読んで、「天地無用」という言葉を見たときに誤った意味で解釈してしまう人がいる理由を書きなさい。なお、読み返して文章を直したときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。</p>	<p style="text-align: center;">段落B</p> <p>また、「無用」の意味が「してはならないこと」であると分かっていたとしても、「天地してはならない」では、意味が通じません。「天地無用」は、「天地を逆にする」ということ無用」のように、傍線部に当たる内容が省略された言い方になっています。字面だけを見ても、そのことは分かりませんから、本来の意味で読み取るのは難しいでしょう。</p> <p>「落書き」や「立ち入り」とは違って、「天地」という言葉自体には「してはならない」というような内容がありません。「逆にする」という省略部分に気づかなければ、「無用」の意味は「役に立たないこと。いらないこと」や「用事が無いこと」に取られかねないので。その結果、「天地はいらない」上下は気にしないで、「天地に用事はない」天地は関係ない」などと解釈されることになりやすいと考えられます。</p> <p style="text-align: center;">…後略…</p>
	<p style="text-align: center;">段落A</p> <p>②の例にあるように「天地無用」の「無用」は「してはならないこと」という意味です。かつて、アニメ番組『ドラえもん』の主題歌の中に「落書き無用」という言葉がありました。これは「落書きをしてはならない」という意味で、「天地無用」も同じ使い方です。</p> <p>このように「無用」の用法は、かつては注意書きなどによく見られました。しかし、現在は「落書き禁止」「立入禁止」など、「禁止」という言葉を用いたり、もっと丁寧に「…しないでください」、「…はご遠慮ください」などと書かれたりするようになっていきます。そのため、「無用」という言葉に「してはならないこと」という意味での使い方があること自体、わかりにくくなっているのかもしれない。</p> <p>「岩波国語辞典 第7版新版」(平成22年・岩波書店) むよう【無用】①役に立たないこと。いらないこと。「心配御—」②してはならないこと。「立入り—」 「天地—」(上下を逆にしてはならないという注意書) ③用事が無いこと。「—の者、入るべからず」</p>